

《非公表プログラムの事例》

E. 学習・研究環境の改善

②国内外の学会発表、実習等に対する経済的支援の充実

●事例 1

具体的に何を実施したのか

2010年9月：本学博士後期課程の学生1名が、タイで開催された国際会議で研究成果を報告。

2011年3月：博士後期課程在籍の学生3名が、台湾の大学での研究交流および日本の人事院に相当する考試院でのヒアリング調査を実施。

実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと

学生の研究成果がきちんと理解されるような会議、交流になるよう配慮した。また、海外の高官と接することになるため、マナー等について学生に簡単なレクチャーを実施した。

どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか

2010年9月の会議では、学生が英語で報告し、フロアからの様々な質疑にも応える経験をしたことで、海外での研究報告に自信を持つことができるようになったとのことである。

2011年3月の研究交流では、現地の大学院生、教員と議論を交わした経験、および、政府高官にインタビューした内容を、帰国後、各学生が研究報告としてその成果をまとめている。

《非公表プログラムの事例》

F. その他

②国際シンポジウム等の開催

●事例 2

具体的に何を実施したのか

2012年2月、二日間にわたる国際シンポジウムを開催した。

実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと

特定の地域に偏らず、米国、欧州、アジアからそれぞれ専門家を招へいするよう配慮した。また、東日本大震災発災から約1年という時期であったため、国（復興庁）の担当者、および、被災自治体の防災、危機管理の実務担当者をあわせて招へいすることで、海外における知見と、現代の課題が関連付けられるよう工夫をした。

どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか

学生はじめ参加者からは、海外の情報が入りにくい分野なので、非常に勉強の参考になったとの反響があった。また、被災自治体のなまの声を聴いたことで、社会人学生（自治体職員）からは今後の業務を進めるうえでたいへん役に立ったとの感想があった。